

モニターの

注目

今日は、小寺佳子さんです。
小寺さんは、深刻化する少子高齢化に注目。「少子化」に対する提言をしてくださいました。

少子化社会と子育て

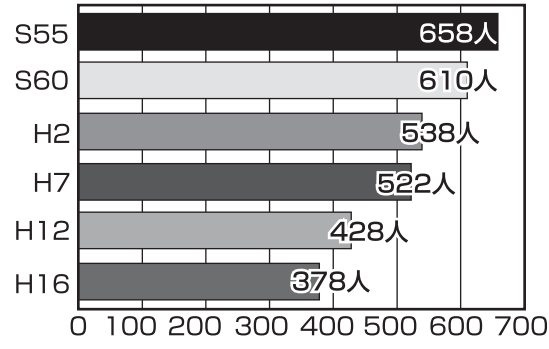
先日、新聞で少子高齢社会について研究している機関が発表したデータの記事を読み驚きました。この記事によると、2050年の日本人の推定人口は8833万人で、高齢化率（65歳以上の割合）が38・9%になるといふことでした。

子育て環境や、社会経済状況が現在のまま変わらないことを前提とした場合、出生率は低くなり、高齢化率は上がるそうです。

深刻な少子化問題

近年、出生率は、低下の一途をたどり、人口を維持するのに必要な水準を大幅に下回

笠岡市の出生者数の推移



つています。笠岡市でも、年間出生数は減少傾向にあります。グラフは、私が生まれた昭和55年からほぼ五年ごとの笠岡市の出生者数の推移を表したものです。約二十五年の

少子化の原因は…

間でも六割弱まで出生者数が減少していることがわかります。これだけの期間でこんなに減少してしまうことにも驚きました。
このような急速な少子化は、労働力人口の減少などを通じ、経済成長へのマイナス効果や地域社会の活力低下など、将来の日本経済に大きく影響を与えることが懸念されています。

深刻化する少子化の大きな背景には、晩婚化の進行による未婚率の上昇があります。これは、女性の社会進出が結婚年齢を高める方向に作用したからと言われています。

また、結婚に対する意識の変化や、職場優先の企業風土、核家族化などの社会環境の変化もあって、仕事と子育ての両立が困難になっていることや、子育てそのものに負担を感じることも考えられます。

さらに晩婚化は、結婚年齢を遅くさせるだけでなく、女性にとって出産のリスクの増加、すなわち出生率の低下に

つながると思います。

出産と子育ての費用

先日、猪口邦子少子化担当相が、出産関係費用を国が全額負担する「出産無料化」制度を提案しました。

この制度は、若年夫婦らの経済負担を軽減し、少子化の進展に歯止めをかけるのが狙いですが、出産費用の無料化だけで少子化に歯止めがかかるとは思えません。

むしろ、子育て自体に費用がかかるのであり、国だけでなく、県や市が一緒になって、児童手当の割増支給や高校の義務教育化など子育て全般にわたる支援が必要です。

子育てに必要なこと

笠岡市は、昨年四月に乳幼児医療の公費負担を入院について就学前まで拡大しました。また、ファミリーサポートセンターや大井児童館のほか、

子ども劇場笠岡センターが行っている子育て広場など、育児への支援体制が充実しつつあります。このような施設・活動を大いにPRすることが求められます。

そして、少子化の流れを食い止めるには、働きながら子育てができる環境づくりと地域社会の組織体制の充実が今後の一番の課題であると私は思います。そのためには、行政だけでなく、企業や地域が一体となって「子どもを育てよう」という共通意識をもつことも大切なのではないでしょうか。



このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてお便りください。
〒714-8601 笠岡市中央町一丁目
企画政策課モニター係
☎082-2114 FAX082-2228